

進化している酸性ベースのハイブリッドパーマ もはや、アルカリ単体のパーマはあり得ない。

●しっかりかかるようになった低ダメージパーマ

従来の低ダメージパーマはダメージが少ない分、かかりが弱い、根本と毛先でかかりムラが出る、使用ロッドがとても細いなど扱いづらいものでした。

ところが、2014年1月号のマルセルに「酸性ベースのハイブリッド・パーマ」として特集されたFM CB理論に基づく低ダメージパーマでは、従来どおりの技法でもしっかりとパーマをかけながら、ダメージを従来の1/10程度まで減らすことができます。

●消費者も新規還元剤の存在を知り始めた

こうしたパーマに取り組むサロンが徐々に増えている中で、少しずつ消費者にもパーマが進化していることが伝わり始めたようです。

『マルセル』でも度々登場するアライフ青木さんは、最近お客様から「スピエラ」のパーマについて問い合わせがあると仰っています。

●従来サロンとの差別化には消費者へのアピールが必要

ヌースフィットでも、2015年の年頭あいさつでお客様からサロンで使用しているパーマ剤がどのようなものか聞かれるようにしたいと申し上げました。

そのためには、サロンからどのようなパーマ剤を使用しているのかお客様に伝える必要があると考えます。

「今のパーマ剤は二種類あります。傷まなくてとても原価の高いパーマ剤と、傷むけど原価の安いパーマ剤です。当店で使用するパーマ剤はスピエラとって傷みが少なく原価の高い薬剤が中心です。値段は少し高くなります。」と仰ってお客様を啓蒙してほしいのです。

●さらに進化する低ダメージパーマ・ストレート

ヌースフィットでは、「GMT」という酸性領域で働く還元剤をクリームタイプで製品化しており、デジタルパーマやストレートの低ダメージ化も進化しています。

もはや、従来からあるアルカリ単体での薬剤でパーマ・ストレートをかける時代では無くなっています。

進化している低ダメージパーマ・ストレート



◆ マルセル2014年1月号



◆ 左: ヒモストGMTコンク(200g)

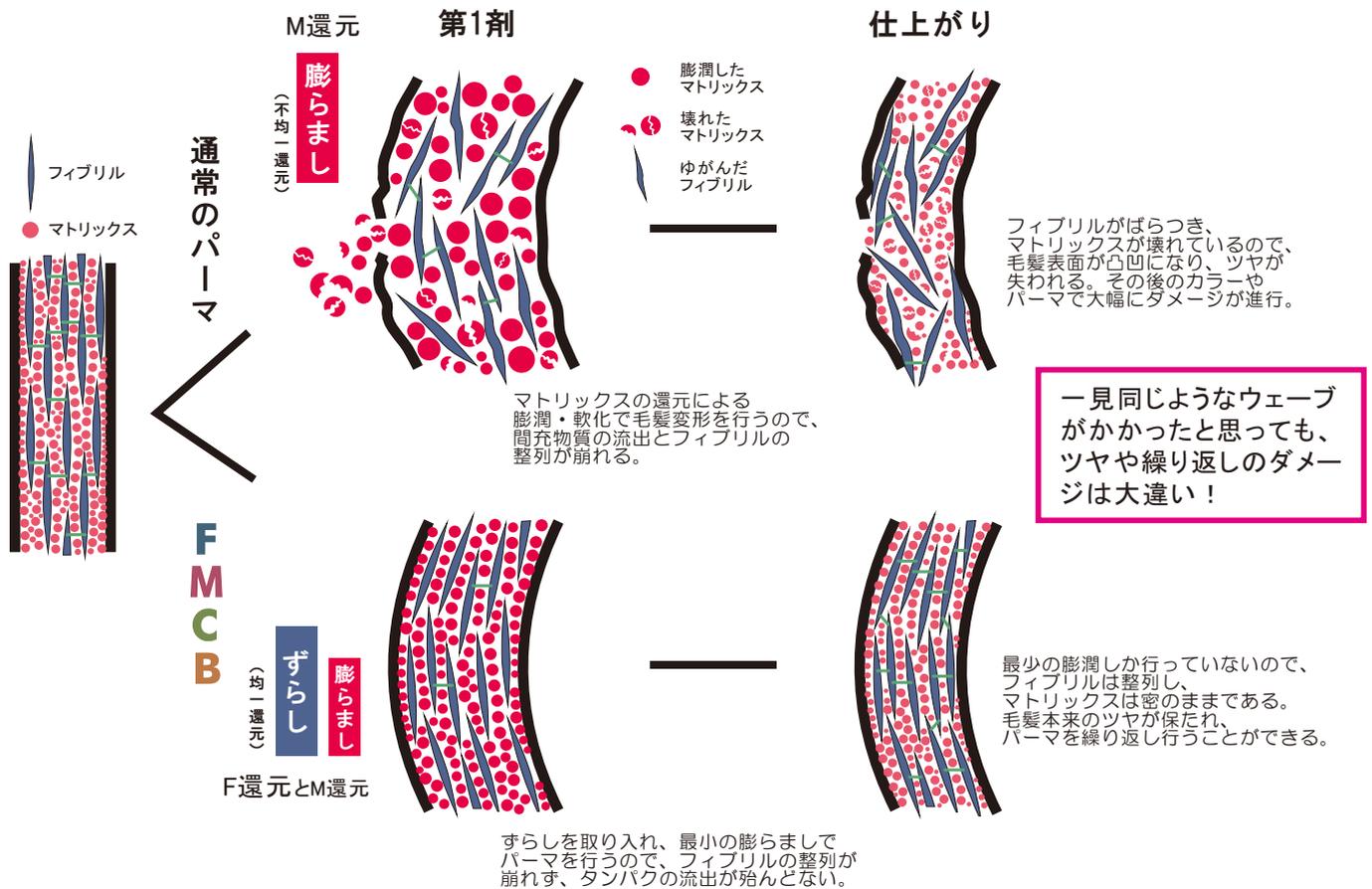
◆ 右: ヒモストクリーム6(800g)

◆FMCB理論のおさらい

- ・フィブリル／毛髪内にある毛髪の繊維状タンパク。
- ・マトリックス／フィブリルの周りを取り囲む不定形タンパク。
- ・F還元／フィブリル間のS-S結合を還元すること。
- ・M還元／マトリックスのS-S結合を還元すること。
- ・「ずらし」／F還元によってフィブリルを「ずらす」こと。
(フィブリルを「ずらす」ことでパーマはかかる。)
- ・「膨らまし」／M還元によってマトリックスを「膨らます」こと。
- ・均一還元／F還元(ずらし)とM還元(膨らまし)をバランスよく行うこと。(理想的な1剤処理)

◆図で解説!! FMCBのずらしと膨らましとは!?

※この説明では、コルテックス細胞を省いて説明を行っていますので、ご注意ください。



スピエラ配合薬液		システアミン+チオ酸配合薬液	
 <p>■Fジェル／400g</p> <p>◇スピエラ 2.8~3.3%(チオ換算)</p> <p>◇pH3.3~3.7</p> <p>◇アルカリ度 0</p>	 <p>■Fローション／400g</p> <p>◇スピエラ 2.8~3.3%(チオ換算)</p> <p>◇pH2.6~3.0</p> <p>◇アルカリ度 0</p>	 <p>■Mジェル／400g</p> <p>◇システアミン+チオ 6.2~6.7%(チオ換算)</p> <p>◇pH7.8~7.3</p> <p>◇アルカリ度 2.8~3.3ml</p>	 <p>■Mローション／400g</p> <p>◇システアミン+チオ 6.2~6.7%(チオ換算)</p> <p>◇pH7.8~7.3</p> <p>◇アルカリ度 3.2~3.7ml</p>

◆「きょうの毛髪科学」／ツイッター：#hairscience
フェイスブック：<http://goo.gl/eSnfPh>